



Cisco SIP IP Phone の管理

この章の構成は、次のとおりです。

- [設定の変更 \(P.3-2\)](#)
- [ネットワーク設定値の変更 \(P.3-3\)](#)
- [SIP 設定値の変更 \(P.3-8\)](#)
- [コール設定値の変更 \(P.3-28\)](#)
- [日付、時刻、および夏時間の設定 \(P.3-29\)](#)
- [ローカル定義設定値の消去 \(P.3-34\)](#)
- [ステータス情報へのアクセス \(P.3-36\)](#)
- [Cisco SIP IP Phone のファームウェアのアップグレード \(P.3-38\)](#)
- [イメージのアップグレードとリモートリブートの実行 \(P.3-41\)](#)

設定の変更

Cisco SIP IP phone の設定は、次の方法のいずれかで変更できます。

- IP フォンのボタンやソフト キーを使用する。まず、「[設定モードに入る](#)」(P. 3-3) の説明に従ってください。
- TFTP サーバ上でデフォルトおよび IP フォン特有のコンフィギュレーション ファイルを編集する。「[TFTP サーバを使用した SIP パラメータの変更](#)」(P. 3-10) を参照してください。
- Telnet またはコンソールを使用して Cisco SIP IP phone に接続し、コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用する。IP フォンの IP アドレスが必要です。**Settings** を押し、**Network Configuration** を選択し、IP Address までスクロール ダウンしてアドレスを見付けます。デフォルトの Telnet パスワードは「cisco」です。



(注) Cisco SIP IP phone のデバッグとトラブルシューティングには、CLI のみを使用してください。

次のパラメータを変更できます。

- ネットワーク設定値。「[ネットワーク設定値の変更](#)」(P. 3-3) を参照してください。
- SIP 設定値。「[SIP 設定値の変更](#)」(P. 3-8) を参照してください。
- コール設定値。「[SIP 設定値の変更](#)」(P. 3-8) を参照してください。
- XML URL 設定値。「[SIP 設定値の変更](#)」(P. 3-8) を参照してください。
- 日付、時刻、および夏時間の設定値。「[日付、時刻、および夏時間の設定](#)」(P. 3-29) を参照してください。

ネットワーク設定値の変更

ユーザは、Cisco SIP IP phone のネットワーク設定値を表示し、その設定値を指定することができます。ネットワーク設定値には、IP フォンのダイナミック ホスト コンフィギュレーションプロトコル (DHCP) サーバ、MAC アドレス、IP アドレス、ドメイン ネームなどの情報があります。

設定モードに入る

Cisco SIP IP phone のネットワーク設定情報にアクセスすると、LCD の右上隅にロック アイコンが表示されます。デフォルトでは、ネットワーク設定情報はロックされています。先に IP フォンのロックを解除しないと、ネットワーク設定パラメータを変更することはできません。

設定モードのロック解除

Cisco SIP IP phone の設定モードのロックを解除するには、2 通りの方法があります。リリース 4.2 以降の IP フォン用の方法と、リリース 4.1 以前の IP フォン用の方法です。

リリース 4.2 以降の場合

リリース 4.2 以降では、IP フォンの Settings メニューに「Unlock Config」項目が表示されます。ユーザが Unlock Config を選択すると、キーパッドの英数字入力機能を使用して、IP フォンのパスワードを入力するように求められます。IP フォンのパスワードを設定するには、phone_password 設定パラメータを使用します。正しいパスワードを入力すると、設定モードのロックが解除され、設定を変更できるようになります。

Network Configuration メニューまたは SIP Configuration メニューが表示されている場合は、LCD の右上隅にあるロック アイコンがロック解除状態を示します。ロック解除アイコンは、システム管理者がネットワーク設定値と SIP 設定値を変更できることを示しています。

Settings メニューを終了すると、IP フォンは自動的に設定を再度ロックします。

リリース 4.1 以前の場合

Cisco リリース 4.2 より前のリリースの Cisco SIP IP phone のロックを解除するには、**# を押します。



(注)

**# を押すと、IP フォンの設定モードがアクティブになります。しかし、設定モードのロック解除を示す表示はありません。

Network Configuration パネルまたは SIP Configuration パネルが表示されている場合は、LCD の右上隅にあるロック アイコンがロック解除状態に変わります。Cisco SIP IP phone メニューの他の画面が表示されている場合は、次回に Network Configuration メニューまたは SIP Configuration メニューにアクセスすると、ロック解除アイコンが表示され、ネットワークと SIP の設定値を変更できます。

設定モードのロック

Cisco SIP IP phone の設定モードをロックするには、2 通りの方法があります。リリース 4.2 以降の IP フォン用の方法と、リリース 4.1 以前の IP フォン用の方法です。

リリース 4.2 以降の場合

設定が正常にロックされると、「Lock Config」というメニュー項目が表示されます。この項目を選択すると、設定が再度ロックされます。また、Settings メニューを終了した場合も、設定が再度ロックされます。詳細については、「設定モードのロック解除」(P. 3-3)を参照してください。

Network Configuration メニューまたは SIP Configuration メニューが表示されている場合は、LCD の右上隅にあるロックアイコンがロック状態を示します。ロックアイコンは、ユーザがネットワーク設定値と SIP 設定値を変更できないことを示しています。

リリース 4.1 以前の場合

設定値の変更を完了してから Cisco SIP IP phone をロックするには、**# を押します。

Network Configuration パネルまたは SIP Configuration パネルが表示されている場合は、LCD の右上隅にあるロックアイコンがロック状態に変わります。Cisco SIP IP phone メニューの他の画面が表示されている場合は、次回に Network Configuration パネルまたは SIP Configuration パネルにアクセスすると、ロックアイコンがロック状態で表示されます。

ロックアイコンは、ユーザがネットワーク設定値と SIP 設定値を変更できないことを示しています。

ネットワーク設定値の変更

始める前に

ネットワーク設定値を指定する際には、次のことに注意してください。

- 「設定モードのロック解除」(P. 3-3)の説明に従って、設定モードのロックを解除します。デフォルトでは、ネットワーク接続に影響を与える可能性のある設定値をエンドユーザが変更できないように、ネットワークパラメータはロックされています。
- 「Cisco SIP IP Phone のメニュー インターフェイスの使用」(P. 2-15)に説明されている、Cisco SIP IP phone メニューの使用に関するガイドラインを確認します。
- 変更を行った後、「設定モードのロック」(P. 3-3)の説明のとおり設定モードを再度ロックします。

ネットワーク設定値を変更する手順は、次のとおりです。

-
- ステップ 1** settings キーを押します。Settings メニューが表示されます。
- ステップ 2** Network Configuration を選択します。
- ステップ 3** Select ソフトキーを押します。Network Configuration メニューが表示されます。表 3-1 に、Network Configuration メニューで選択可能なネットワークパラメータをリストしています。
- ステップ 4** 完了したら、Save ソフトキーを押します。IP フォンは、新しい情報をフラッシュメモリ内にプログラムし、リセットします。
-



注意

変更を完了したら、「設定モードのロック」(P. 3-3)の説明に従って必ず IP フォンをロックしてください。


表 3-1 ネットワーク設定パラメータ

| パラメータ | 変更可 / 変更不可 | 説明 |
|-----------------------|---|---|
| Admin. VLAN Id | 可。ただし、管理 VLAN を Catalyst スイッチ上で割り当てるように設定している場合、その設定値は、IP フォンで加えられたすべての変更を上書きします。 | IP フォンが接続されている VLAN の固有 ID。このフィールドの値は、シスコ ネットワーク以外の交換回線ネットワークでのみ使用されません。 |
| Alternate TFTP | 可 | 代替 TFTP サーバを使用するかどうかを指定します。このフィールドは、システム管理者がローカル TFTP サーバの代わりに、リモート TFTP サーバを指定できるようにします。このパラメータに入力する値は、Yes か No です。デフォルト値は No です。Yes を指定した場合は、TFTP Address パラメータ内の IP アドレスを、代替 TFTP サーバのアドレスに変更する必要があります。 |
| Default Routers 1 ~ 5 | 可。ただし、DHCP が使用不可でなければなりません。 | IP フォンが使用するデフォルト ゲートウェイの IP アドレス。Default Routers 2 ~ 5 は、プライマリ ゲートウェイが利用不能の場合、IP フォンが代替ゲートウェイとして使用を試みるゲートウェイの IP アドレスです。 |
| DHCP Address Released | 可 | IP フォンの IP アドレスを解放して、ネットワークで再利用できるようにするかどうかを指定します。このフィールドを Yes に設定すると、IP フォンは、DHCP 解放メッセージを DHCP サーバに送り、解放状態になります。IP フォンが解放状態になると、その状態がしばらく続きます。管理者は、その間に IP フォンをネットワークから取りはずすことができます。一定の時間が経過すると、解放状態は終了し、IP フォンは DHCP サーバから別の IP アドレスを獲得しようとします。IP フォンを新しいネットワーク セグメントに移動するときは、最初に DHCP アドレスを解放することが必要です。 |
| DHCP Enabled | 可 | IP フォンがネットワーク設定値 (IP アドレス、サブネット マスク、ドメイン ネーム、デフォルト ルータ リスト、DNS サーバリスト、TFTP アドレス) を指定するのに、DHCP を使用するかどうかを指定します。このフィールドに有効な値は Yes と No です。デフォルトでは、IP フォン上で DHCP が使用可能になります。手作業で IP 設定値を指定する場合は、最初に DHCP を使用不可にしておくことが必要です。 |
| DHCP Server | 不可 | DHCP サーバの IP アドレス。このサーバから、IP フォンは自身の IP アドレスや、その他のネットワーク設定値を受け取ります。 |
| DNS Servers 1 ~ 5 | 可。ただし、DHCP が使用不可でなければなりません。 | IP フォンがコンピュータ名を IP アドレスに変換するために使用する DNS サーバの IP アドレス。DNS Server 1 が利用不能の場合、IP フォンは DNS Server 2 ~ 5 の使用を試みます。 |
| Domain Name | 可 | IP フォンが常駐する DNS ドメインの名前。 |

表 3-1 ネットワーク設定パラメータ (続き)

| パラメータ | 変更可 / 変更不可 | 説明 |
|-------------------------------|-----------------------------|---|
| Dynamic DNS Server 1 および 2 | 不可 | 新しいダイナミック DNS サーバの IP アドレスを指定できます。新しい DNS サーバが指定されると、そのサーバは、IP フォンがブート時に初期 DNS アドレスを使用した後、それ以降のすべての DNS 要求に使用されます。DNS アドレスは次の順に使用されます。 <ol style="list-style-type: none"> 1. dyn_dns_addr_1 (存在する場合) 2. dyn_dns_addr_2 (存在する場合) 3. DNS Server 1 4. DNS Server 2 5. DNS Server 3 6. DNS Server 4 7. DNS Server 5 ダイナミック DNS アドレスはフラッシュメモリに保存されません。 |
| Dynamic TFTP Server | 不可 | 新しいダイナミック TFTP サーバの IP アドレスを指定できます。始めにデフォルト TFTP サーバに照会した後、IP フォンは、新しい TFTP サーバにデフォルトおよび MAC 特有のコンフィギュレーションファイルを再要求します。ダイナミック TFTP サーバはフラッシュメモリに保存されません。 |
| Erase Configuration | 可 | IP フォン上でローカルに定義された設定値をすべて消去して、値をデフォルト値にリセットするかどうかを指定します。Yes を選択すると、DHCP が再度使用可能になります。ローカル設定値の消去について詳しくは、「ローカル定義設定値の消去」(P. 3-34) を参照してください。 |
| Host Name | 不可 | IP フォンに割り当てられている固有のホスト名。このフィールドの値は、常に SIPmac です (mac は IP フォンの MAC アドレス)。 |
| HTTP Proxy Address | 可 | HTTP プロキシサーバの IP アドレス。ドット区切りの IP アドレスまたは DNS 名のどちらかを使用できます (レコードのみ)。 |
| HTTP Proxy Port | 可 | 発信プロキシポートのポート番号。デフォルト値は 80 です。 |
| IP Address | 可。ただし、DHCP が使用不可でなければなりません。 | DHCP によって割り当てられたか、またはローカルで設定された、IP フォンの IP アドレス。 |
| MAC Address | 不可 | 工場出荷時に割り当てられた、IP フォンに固有の 48 ビット 16 進 MAC アドレス。 |
| Network Media Type | 可 | イーサネットポートのネゴシエーションモード。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Auto : ポートのネゴシエーションを自動的に行います (これがデフォルト値です)。 • Full100 : ポートを全二重 100 Mbps 接続に設定します。 • Half100 : ポートを半二重 100 Mbps 接続に設定します。 • Full10 : ポートを全二重 10 Mbps 接続に設定します。 • Half10 : ポートを半二重 10 Mbps 接続に設定します。 |

表 3-1 ネットワーク設定パラメータ (続き)

| パラメータ | 変更可 / 変更不可 | 説明 |
|----------------------------|-----------------------------|---|
| Network Port 2 Device Type | 可 | <p>IP フォンのポート 2 に接続されるデバイス タイプ。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Hub/Switch (デフォルト) • PC <p> (注) 値が PC である場合、ポート 2 は PC にしか接続できません。接続が不明な場合は、デフォルト値を使用してください。「PC」値を設定しているときに、ポート 2 をスイッチに接続すると、スパニングツリー ループとネットワークの混乱が生じる恐れがあります。</p> |
| Operational VLAN Id | 不可 | IP フォンがメンバーになっている VLAN の固有 ID。この ID は、Cisco 検出プロトコル (CDP) を使用して入手します。 |
| Subnet Mask | 可。ただし、DHCP が使用不可でなければなりません。 | IP フォンが使用する IP サブネット マスク。サブネット マスクは、IP アドレスをネットワーク ID と ホスト ID に区分します。 |
| TFTP Server | 可。ただし、DHCP が使用不可でなければなりません。 | IP フォンが、自身のコンフィギュレーション ファイルと、ファームウェア イメージをダウンロードする元の TFTP サーバの IP アドレス。 |

SIP 設定値の変更

Cisco SIP IP phone の SIP パラメータを変更できます。SIP パラメータを変更するには、次のことに注意してください。

- デフォルトのコンフィギュレーションファイルに定義されているパラメータは、フラッシュメモリに保存されている値を上書きする。
- IP フォン特有のコンフィギュレーションファイルに定義されているパラメータは、デフォルトのコンフィギュレーションファイルに指定されている値を上書きする。
- 各 IP フォンでローカルに入力されたパラメータは、次のリブートまで有効である (IP フォン特有のコンフィギュレーションファイルが存在する場合)。
- TFTP サーバを使用して IP フォンを設定しないことを選択した場合には、IP フォンをローカルで管理する必要がある。

表 3-2 は、設定が可能な SIP パラメータの一覧です。「コンフィギュレーションファイル」欄は、コンフィギュレーションファイルで指定するパラメータ名を示しています。SIP Configuration、Network Configuration、Call Preferences、および Time and Date の各メニュー欄は、ユーザインターフェイスに表示されるものと同じパラメータ名を示しています。メニュー欄に NA が表示される場合、そのメニューを使用してパラメータを定義することはできません。

表 3-2 SIP パラメータの要約

| コンフィギュレーション ファイル | SIP Configuration メニュー | Network Configuration メニュー | Call Preferences メニュー | Time and Date メニュー |
|-------------------------|---------------------------|----------------------------------|--------------------------|-----------------------|
| anonymous_call_block | — | — | Anonymous Call Block | — |
| autocomplete | — | — | Auto-Complete Numbers | — |
| callerid_blocking | — | — | Caller ID Blocking | — |
| call_hold_ringback | — | — | Call Hold Ringback | — |
| call_waiting | — | — | Call Waiting | — |
| cnf_join_enable | — | — | — | — |
| date_format | — | — | — | Date Format |
| dial_template | — | — | — | — |
| dnd_control | — | — | Do Not Disturb | — |
| dst_auto_adjust | — | — | — | — |
| dst_offset | — | — | — | — |
| dst_start_day | — | — | — | — |
| dst_start_day_of_week | — | — | — | — |
| dst_start_month | — | — | — | — |
| dst_start_time | — | — | — | — |
| dst_start_week_of_month | — | — | — | — |
| dst_stop_day | — | — | — | — |
| dst_stop_day_of_week | — | — | — | — |
| dst_stop_month | — | — | — | — |
| dst_stop_time | — | — | — | — |
| dst_stop_week_of_month | — | — | — | — |
| dtmf_avt_payload | — | — | — | — |
| dtmf_db_level | — | — | — | — |

表 3-2 SIP パラメータの要約 (続き)

| コンフィギュレーション ファイル | SIP Configuration メニュー | Network Configuration メニュー | Call Preferences メニュー | Time and Date メニュー |
|-----------------------------------|---------------------------|----------------------------------|--------------------------|-----------------------|
| dtmf_inband | — | — | — | — |
| dtmf_outofband | Out of Band DTMF | — | — | — |
| enable_vad | Enable VAD | — | — | — |
| end_media_port | End Media Port | — | — | — |
| image_version | — | — | — | — |
| language | — | — | — | — |
| linex_authname (line1 ~ line6) | Authentication Name | — | — | — |
| linex_displayname (line1 ~ line6) | Display Name | — | — | — |
| linex_name (line1 ~ line6) | Name | — | — | — |
| linex_password (line1 ~ line6) | Authentication Password | — | — | — |
| linex_shortname (line1 ~ line6) | Shortname | — | — | — |
| messages_uri | Messages URI | — | — | — |
| nat_address | NAT Address | — | — | — |
| nat_enable | NAT Enabled | — | — | — |
| nat_received_processing | — | — | — | — |
| network_media_type | — | Network Media Type | — | — |
| network_port2_type | — | Network Port 2 Device Type | — | — |
| outbound_proxy | Outbound Proxy | — | — | — |
| outbound_proxy_port | Outbound Proxy Port | — | — | — |
| phone_label | Phone Label | — | — | — |
| phone_password | — | — | — | — |
| phone_prompt | — | — | — | — |
| preferred_codec | Preferred Codec | — | — | — |
| proxy_backup | Backup Proxy | — | — | — |
| proxy_backup_port | Backup Proxy Port | — | — | — |
| proxy_emergency | Emergency Proxy | — | — | — |
| proxy_emergency_port | Emergency Proxy Port | — | — | — |
| proxy_register | Register with Proxy | — | — | — |
| proxyN_address (N=1 ~ 6) | Proxy Address | — | — | — |
| proxyN_port (N=1 ~ 6) | Proxy Port | — | — | — |
| remote_party_id | — | — | — | — |
| sip_invite_rettx | — | — | — | — |
| sip_rettx | — | — | — | — |
| sntp_mode | — | — | — | — |
| sntp_server | — | — | — | — |
| start_media_port | Start Media Port | — | — | — |
| sync | — | — | — | — |
| tftp_cfg_dir | TFTP Directory | — | — | — |

表 3-2 SIP パラメータの要約 (続き)

| コンフィギュレーション ファイル | SIP Configuration メニュー | Network Configuration メニュー | Call Preferences メニュー | Time and Date メニュー |
|------------------------|---------------------------|----------------------------------|--------------------------|-----------------------|
| time_format_24hr | — | — | — | Time format 24-hr |
| time_zone | — | — | — | Time Zone |
| timer_invite_expires | — | — | — | — |
| timer_register_expires | Register Expires | — | — | — |
| timer_t1 | — | — | — | — |
| timer_t2 | — | — | — | — |
| tos_media | — | — | — | — |
| user_info | — | — | — | — |
| voip_control_port | VoIP Control Port | — | — | — |

TFTP サーバを使用した SIP パラメータの変更

この節の説明に従って、TFTP サーバを使用して SIP パラメータを取得するように IP フォンを設定した場合は、コンフィギュレーションファイルを使用して SIP パラメータを変更することも可能です。

「SIP パラメータの設定」(P. 2-4) で説明されているように、SIP パラメータを定義するのに使用できるコンフィギュレーションファイルには、2 種類あります。デフォルトのコンフィギュレーションファイルと IP フォン特有のコンフィギュレーションファイルです。デフォルトのコンフィギュレーションファイルを使用する場合、ファイルは TFTP サーバのルートディレクトリに保存されている必要があります。IP フォン特有のコンフィギュレーションファイルは、TFTP サーバのルートディレクトリ、または IP フォン特有のコンフィギュレーションファイルが保存されているサブディレクトリに保存できます。

必須ではありませんが、すべての IP フォンに共通する SIP パラメータの値の定義には、デフォルトのコンフィギュレーションファイルを使用することをお勧めします。デフォルトのコンフィギュレーションファイルを使用すれば、ネットワークのコントロールとメンテナンスが容易になります。その後で、IP フォンに固有のパラメータだけを IP フォン特有のコンフィギュレーションファイルに定義することもできます。IP フォンに固有のパラメータは、IP フォン特有のコンフィギュレーションファイル内で定義するか、手作業で設定するかのどちらかにしてください。デフォルトのコンフィギュレーションファイルには、IP フォンに特有のパラメータを定義しないでください。

デフォルトの SIP コンフィギュレーションファイルの変更

すべての IP フォンに共通の SIP パラメータは、デフォルトのコンフィギュレーションファイル (SIPDefault.cnf) で維持することをお勧めします。こうしたパラメータをデフォルトのコンフィギュレーションファイルで維持することによって、イメージバージョンのアップグレード時などに、一括して変更することができ、各 IP フォンごとに IP フォン特有のコンフィギュレーションファイルを変更する必要がなくなります。

始める前に

- SIPDefault.cnf ファイルが Cisco.com から TFTP サーバのルートディレクトリにダウンロードされていることを確認します。
- 「SIP パラメータの設定」(P. 2-4) で説明しているガイドラインを確認します。



(注) 詳細については、「[日付、時刻、および夏時間の設定](#)」(P. 3-29) を参照してください。

ステップ 1 ASCII エディタを使用して、SIPDefault.cnf ファイルを開き、必要に応じて、[表 3-3](#) に表示されている SIP パラメータの値を定義または変更します。

ステップ 2 ファイルを同じファイル名、SIPDefault.cnf で、TFTP サーバのルートディレクトリに保存します。

表 3-3 デフォルト SIP コンフィギュレーション ファイルのパラメータ

| パラメータ | 必須またはオプション | 説明 |
|----------------------|------------|---|
| anonymous_call_block | オプション | <p>番号非通知呼び出しブロックを設定します。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 0: デフォルトで使用不可ですが、ユーザ インターフェイスを使用してオン/オフを切り替えることができます。使用不可にすると、番号非通知呼び出しを受信します。 1: デフォルトで使用可能ですが、ユーザ インターフェイスを使用してオン/オフを切り替えることができます。使用可能にすると、番号非通知呼び出しは拒否されます。 2: 常に使用不可であり、ユーザ インターフェイスを使用してローカル側でオン/オフを切り替えることはできません。このパラメータは、IP フォン特有のコンフィギュレーション ファイルで指定してください。 3: 常に使用可能であり、ユーザ インターフェイスを使用してローカル側でオン/オフを切り替えることはできません。このパラメータは、IP フォン特有のコンフィギュレーション ファイルで指定してください。 <p>デフォルト値は 0 です。</p> |
| autocomplete | オプション | <p>番号の自動入力を設定します。有効な値は 0 (自動入力を使用不可にする) または 1 (自動入力を使用可能にする) です。デフォルト値は 1 です。</p> |
| call_hold_ringback | オプション | <p>DND と同じように動作します。このパラメータは、Services->Call Preferences メニューでユーザが選択できます。この値を使用可能にすると、受話器を掛けた状態で、現在保留中のコールがある場合、IP フォンが鳴ります。この値が使用不可である場合、この状態で IP フォンは鳴りません。指定できる値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 0: デフォルトでオフですが、ユーザ インターフェイスを使用してローカル側でオン/オフを切り替えることができます。 1: デフォルトでオンですが、ユーザ インターフェイスを使用してローカル側でオン/オフを切り替えることができます。 2: 常にオフであり、ユーザ インターフェイスを使用してローカル側でオン/オフを切り替えることはできません。このパラメータは、IP フォン特有のコンフィギュレーション ファイルで指定してください。 3: 常にオンであり、ユーザ インターフェイスを使用してローカル側でオン/オフを切り替えることはできません。このパラメータは、IP フォン特有のコンフィギュレーション ファイルで指定してください。 <p>デフォルト値は 0 です。</p> |

表 3-3 デフォルト SIP コンフィギュレーション ファイルのパラメータ (続き)

| パラメータ | 必須またはオプション | 説明 |
|-------------------|------------|--|
| call_waiting | オプション | <p>コール ウェイティングを設定します。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 0: デフォルトで使用不可ですが、ユーザ インターフェイスを使用してオン/オフを切り替えることができます。使用不可である場合、コール ウェイティング呼び出しを受信しません。 1: デフォルトで使用可能ですが、ユーザ インターフェイスを使用してオン/オフを切り替えることができます。使用可能である場合、コール ウェイティング呼び出しを受け入れます。 2: 常に使用不可であり、ユーザ インターフェイスを使用してローカル側でオン/オフを切り替えることはできません。このパラメータは、IP フォン特有のコンフィギュレーション ファイルで指定してください。 3: 常に使用可能であり、ユーザ インターフェイスを使用してローカル側でオン/オフを切り替えることはできません。このパラメータは、IP フォン特有のコンフィギュレーション ファイルで指定してください。 <p>デフォルト値は 1 です。</p> |
| callerid_blocking | オプション | <p>発信者電話番号非通知を設定します。使用可能にすると、IP フォンは発信者識別機能が使用可能になっている IP フォンに、自身の番号または E メールアドレスを通知しません。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 0: デフォルトで使用不可ですが、ユーザ インターフェイスを使用してオン/オフを切り替えることができます。使用不可にすると、発信者の ID が Request-URI ヘッダー フィールドに入ります。 1: デフォルトで使用可能ですが、ユーザ インターフェイスを使用してオン/オフを切り替えることができます。使用可能にすると、Request-URI ヘッダー フィールドにユーザ ID の代わりに「Anonymous」が入ります。 2: 常に使用不可であり、ユーザ インターフェイスを使用してローカル側でオン/オフを切り替えることはできません。このパラメータは、IP フォン特有のコンフィギュレーション ファイルで指定してください。 3: 常に使用可能であり、ユーザ インターフェイスを使用してローカル側でオン/オフを切り替えることはできません。このパラメータは、IP フォン特有のコンフィギュレーション ファイルで指定してください。 <p>デフォルト値は 0 です。</p> |
| cnf_join_enable | オプション | <p>コンファレンス ブリッジが停止するときに、2 つのリーフノードの結合を試みるかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 0: 2 つのリーフノードを結合しません。 1: 2 つのリーフノードを結合します。 <p>デフォルト値は 1 です。</p> |
| date_format | オプション | <p>日付の形式を指定します。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> M/D/Y: 月 / 日 / 年 D/M/Y: 日 / 月 / 年 Y/M/D: 年 / 月 / 日 Y/D/M: 年 / 日 / 月 Y-M-D: 年 - 月 - 日 YY-M-D: 4 桁の年 - 月 - 日 <p>デフォルトは M/D/Y です。</p> |

表 3-3 デフォルト SIP コンフィギュレーション ファイルのパラメータ (続き)

| パラメータ | 必須またはオプション | 説明 |
|-------------------------|------------|---|
| directory_url | オプション | 外部ディレクトリ サーバの URL を指定します。この URL にアクセスするのは、Directory キーを押し、External Directory オプションを選択する場合です。たとえば、次の directory_url を使用してください。 「http://10.10.10.10/CiscoServices/Directory.asp」 |
| dnd_control | オプション | 着信拒否 (DND) を指定します。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 0: デフォルトでオフですが、ユーザ インターフェイスを使用してローカル側でオン/オフを切り替えることができます。 1: デフォルトでオンですが、ユーザ インターフェイスを使用してローカル側でオン/オフを切り替えることができます。IP フォンは、この IP フォンに発信されたすべてのコールをブロックし、Missed Calls ディレクトリにそれらのコールのログを記録します。 2: 常にオフであり、ユーザ インターフェイスを使用してローカル側でオン/オフを切り替えることはできません。このパラメータは、IP フォン特有のコンフィギュレーション ファイルで指定してください。 3: 常にオンであり、ユーザ インターフェイスを使用してローカル側でオン/オフを切り替えることはできません。この設定値は、IP フォンを「発信専用」の IP フォンに設定します。このパラメータは、IP フォン特有のコンフィギュレーション ファイルで指定してください。 デフォルト値は 0 です。 |
| dst_auto_adjust | オプション | 日付、時刻、および DST を設定します。詳細については、「 日付、時刻、および夏時間の設定 」(P. 3-29) を参照してください。 |
| dst_offset | | |
| dst_start_day | | |
| dst_start_day_of_week | | |
| dst_start_month | | |
| dst_start_time | | |
| dst_start_week_of_month | | |
| dst_stop_day | | |
| dst_stop_day_of_week | | |
| dst_stop_month | | |
| dst_stop_time | | |
| dst_stop_week_of_month | | |
| dtmf_avt_payload | オプション | Audio/Video Transport (AVT) パケットのペイロードタイプを設定します。値の範囲は 96 ~ 127 です。指定する値が 127 を越える場合、IP フォンはデフォルト値の 101 に設定されます。 |
| dtmf_db_level | オプション | インバンド DTMF デジットのトーン レベルを指定します。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 1: 公称値より 6 dB 下 2: 公称値より 3 dB 下 3: 公称値 4: 公称値より 3 dB 上 5: 公称値より 6 dB 上 デフォルト値は 3 です。 |

表 3-3 デフォルト SIP コンフィギュレーション ファイルのパラメータ (続き)


| パラメータ | 必須またはオプション | 説明 |
|----------------|------------|---|
| dtmf_inband | オプション | インバンド シグナリング形式を設定します。有効な値は、1 (インバンド DTMF デジタルを生成する) および 0 (インバンド DTMF デジタルを生成しない) です。デフォルト値は 1 です。 |
| dtmf_outofband | オプション | <p>アウトオブバンド シグナリングを設定します (ゲートウェイの IP 側でのトーン検出用)。</p> <p> (注) Cisco SIP IP phone は、AVT トーン方式を使用したアウトオブバンド シグナリングをサポートします。</p> <p>有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • none : アウトオブバンド DTMF デジタルを生成しません。 • avt : リモート側から要求された場合に、アウトオブバンド DTMF デジタルを生成します (インバンド DTMF シグナリングを使用不可にします)。それ以外の場合は、アウトオブバンド DTMF デジタルを生成しません。 • avt_always : 常に、アウトオブバンド DTMF デジタルを生成します。このオプションは、インバンド DTMF シグナリングを使用不可にします。 <p>デフォルト値は avt です。</p> |
| dyn_dns_addr_1 | オプション | <p>新しいダイナミック DNS サーバの IP アドレスを指定します。新しい DNS サーバが指定されると、そのサーバは、IP フォンがブート時に初期 DNS アドレスを使用した後、それ以降の DNS 要求に使用されます。DNS アドレスは次の順に使用されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. dyn_dns_addr_1 (存在する場合) 2. dyn_dns_addr_2 (存在する場合) 3. DNS Server 1 4. DNS Server 2 5. DNS Server 3 6. DNS Server 4 7. DNS Server 5 <p>ダイナミック DNS アドレスはフラッシュ メモリに保存されません。ドット区切りの IP アドレスだけが受け入れられます。この値を消去するには、コンフィギュレーション ファイルから除去するか、その値を nul 値「」または「UNPROVISIONED」に変更します。</p> |
| dyn_dns_addr_2 | オプション | DNS 要求に使用される 2 番目のダイナミック DNS を指定します。 |
| dyn_tftp_addr | オプション | <p>新しいダイナミック TFTP サーバの IP アドレスを指定します。始めにデフォルト TFTP サーバに照会した後、IP フォンは、新しい TFTP サーバにデフォルト、および MAC 特有のコンフィギュレーション ファイルを再要求します。ダイナミック TFTP サーバはフラッシュ メモリに保存されません。IP フォンが 2 つの TFTP サーバ間でバウンスしないように、IP フォンがサポートする dyn_tftp_addr 値の数が制限されます。ドット区切りの IP アドレスだけが受け入れられます。この値を消去するには、コンフィギュレーション ファイルから除去するか、その値を nul 値「」または「UNPROVISIONED」に変更します。</p> |

表 3-3 デフォルト SIP コンフィギュレーション ファイルのパラメータ (続き)


| パラメータ | 必須またはオプション | 説明 |
|-----------------|------------|---|
| enable_vad | オプション | VAD を使用可能または使用不可にします。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 0 : 使用不可 1 : 使用可能 デフォルト値は 0 です。 |
| end_media_port | オプション | メディアに対するリアルタイム トランスポート プロトコル (RTP) 範囲の終わりを設定します。有効な値は 16,384 ~ 32,766 です。デフォルトは 32,766 です。 |
| http_proxy_addr | オプション | HTTP プロキシ サーバの IP アドレスを指定します。ドット区切りの IP アドレスまたは DNS 名のどちらかを使用できます (レコードのみ)。 |
| http_proxy_port | オプション | HTTP プロキシ ポートの番号を指定します。デフォルト値は 80 です。 |
| image_version | 必須 | Cisco SIP IP phone が実行する必要があるファームウェア バージョンを指定します。イメージ バージョンの名前 (シスコ社によってリリースされた名前) を入力します。拡張子は入力しないでください。バージョンはファイル ヘッダーにも組み込まれているので、ファイル名を変更してイメージ バージョンを変更することはできません。ファイル名を変更してイメージ バージョンを変更しようとすると、ファームウェアは、ヘッダー内のバージョンをファイル名と比較した時点で、エラーを検出します。 |
| language | オプション | このパラメータは将来使用するためのものです。現在サポートされている値は English だけです。 |
| logo_url | オプション | 会社のロゴ ファイルのロケーションを指定します。このロゴは、IP フォンの画面に表示されます。イメージに割り当てられている背景スペースは 90 x 56 ピクセルです。これより大きいイメージは、自動的に 90 x 56 ピクセルに縮小されます。イメージの推奨ファイル サイズは 5 ~ 15 Kb です。たとえば、次の logo_url を使用します。「http://10.10.10.10/companylogo.bmp」  (注) このパラメータは Windows 256 色ビットマップ形式だけをサポートしています。CMXML PhoneImage オブジェクトは、このパラメータに対してサポートされていません。Windows ビットマップ (.bmp) ファイル以外を使用すると、予期しない結果が生じる可能性があります。 |
| messages_uri | オプション | messages ボタンを押したときのボイスメール番号を設定します。 |
| nat_address | オプション | NAT またはファイアウォール サーバの WAN IP アドレスを指定します。ドット区切りの IP アドレスまたは DNS 名のどちらかを使用できます (レコードのみ)。 |

表 3-3 デフォルト SIP コンフィギュレーション ファイルのパラメータ (続き)

| パラメータ | 必須またはオプション | 説明 |
|-------------------------|------------|--|
| nat_enable | オプション | <p>NAT を使用可能または使用不可にします。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 0 : 使用不可 1 : 使用可能 <p>デフォルト値は 0 です。</p> <p>NAT が使用可能である場合、Contact ヘッダーは次のように表示されます。</p> <p>Contact: sip:lineN_name@nat_address:voip_control_port</p> <p>nat_address が無効または UNPROVISIONED である場合、Contact ヘッダーは次のように表示されます。</p> <p>Contact: sip:lineN_name@phone_ip_address:voip_control_port</p> <p>さらに、Via ヘッダーは次のように表示されます。</p> <p>Via: SIP/2.0/UDP phone_ip_address:voip_control_port</p> <p>NAT が使用可能である場合、セッション記述プロトコル (SDP) メッセージは、nat_address、ならびに C および M フィールド内の start_media_port と end_media_port 範囲間の RTP ポートを使用します。すべての RTP トラフィックは、SDP でアドバタイズされるポートから発信されます。</p> |
| nat_received_processing | オプション | <p>NAT 受信処理を使用可能または使用不可にします。有効な値は、次のとおりです。</p> <p>0 : 使用不可</p> <p>1 : 使用可能</p> <p>デフォルト値は 0 です。</p> <p>nat_received_processing が使用可能であるときに、REGISTER からの 200 OK 応答の Via ヘッダー内に received= タグがある場合、Contact ヘッダー内の nat_address ではなく、received= タグ内の IP アドレスが使用されます。この切り替えが起きた場合、IP フォンは、古い IP アドレスの登録を解除し、新しい IP アドレスを登録します。</p> |
| network_media_type | オプション | <p>イーサネット ポートのネゴシエーション モードを指定します。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> Auto : ポートのネゴシエーションを自動的に行います Full100 : ポートを全二重 100 Mbps 接続に設定します。 Half100 : ポートを半二重 100 Mbps 接続に設定します。 Full10 : ポートを全二重 10 Mbps 接続に設定します。 Half10 : ポートを半二重 10 Mbps 接続に設定します。 <p>デフォルト値は Auto です。</p> |

表 3-3 デフォルト SIP コンフィギュレーション ファイルのパラメータ (続き)

| パラメータ | 必須またはオプション | 説明 |
|----------------------|------------|--|
| network_port2_type | オプション | <p>IP フォンのポート 2 に接続されるデバイス タイプを設定します。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> Hub/Switch (デフォルト) PC <p> (注) 値が PC である場合、ポート 2 は PC にしか接続できません。接続が不明な場合は、デフォルト値を使用してください。「PC」値を使用するときに、ポート 2 をスイッチに接続すると、スパニングツリー ループとネットワークの混乱が生じます。</p> |
| outbound_proxy | オプション | <p>発信プロキシ サーバの IP アドレスを指定します。ドット区切りの IP アドレスまたは DNS 名のどちらかを使用できます。</p> |
| outbound_proxy_port | オプション | <p>発信プロキシ サーバのポート番号を指定します。デフォルトは 5060 です。発信プロキシが使用可能になっている場合、すべての SIP 要求は、<code>proxyN_address</code> ではなく、発信プロキシ サーバに送信されます。すべての応答は、通常の Via 処理規則に引き続き従います。メディア ストリームは、発信プロキシを介してルート指定されません。</p> <p>NAT モードと発信プロキシモードは、別々に使用可能または使用不可にすることができます。最上位の Via ヘッダーに <code>received=</code> タグがない場合、およびソース IP アドレスが最上位 Via ヘッダー内の IP アドレスと異なる場合、すべての応答の Via ヘッダーに <code>received=</code> タグが追加されます。応答は、次の条件でソースに戻されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <code>received=</code> タグが最上位の Via ヘッダーにある場合、応答は、その <code>received=</code> タグに含まれている IP アドレスに戻される。 <code>received=</code> タグがないときに、最上位の Via ヘッダー内の IP アドレスがソース IP アドレスと異なる場合、応答はソース IP アドレスに戻される。それ以外の場合、応答は、最上位の Via ヘッダー内の IP アドレスに戻される。 |
| phone_password | オプション | <p>コンソールまたは Telnet アクセスに使用されるパスワードを指定します。デフォルトのパスワードは「cisco」です。</p> |
| phone_prompt | オプション | <p>Telnet またはコンソール アクセスを使用する場合に表示されるプロンプトを指定します。デフォルトの IP フォンプロンプトは「SIP Phone」です。</p> |
| preferred_codec | オプション | <p>コールの発信時に使用するコーデックを指定します。有効な値は、<code>g711alaw</code>、<code>g711ulaw</code>、<code>g729a</code>、および <code>none</code> です。デフォルト値は <code>g711ulaw</code> です。</p> |
| proxy_backup | オプション | <p>バックアップ プロキシ サーバまたはゲートウェイの IP アドレスを指定します。このアドレスは、ドットで区切られた十進数の IP 表記法で入力します。</p> |
| proxy_backup_port | オプション | <p>バックアップ プロキシ サーバのポート番号を指定します。デフォルトは 5060 です。</p> |
| proxy_emergency | オプション | <p>緊急プロキシ サーバまたはゲートウェイの IP アドレスを指定します。このアドレスは、ドットで区切られた十進数の IP 表記法で入力します。</p> |
| proxy_emergency_port | オプション | <p>緊急プロキシ サーバのポート番号を指定します。デフォルトは 5060 です。</p> |

表 3-3 デフォルト SIP コンフィギュレーション ファイルのパラメータ (続き)



| パラメータ | 必須またはオプション | 説明 |
|-----------------|------------|--|
| proxy_register | オプション | <p>初期化時に IP フォンをプロキシ サーバに登録する必要があるかどうかを指定します。有効な値は 0 と 1 です。0 を指定すると、初期化時の登録が使用不可になります。初期化時の登録を使用可能にするときは、1 を指定します。デフォルト値は 0 です。</p> <p>IP フォンを初期化してプロキシ サーバに登録した後、このパラメータの値を手作業で 0 に変更すると、IP フォンはプロキシ サーバから登録解除されます。登録を再度開始するには、このパラメータの値を再度 1 に変更します。</p> <p> (注) 登録を使用可能にするときに、認証が必要な場合は、IP フォン特有のコンフィギュレーション ファイル内の <code>linex_authname</code> パラメータと <code>linex_password</code> パラメータ (x は 1 ~ 6 の番号) に値を指定する必要があります。IP フォン特有のコンフィギュレーション ファイルの設定については、「IP フォン特有の SIP コンフィギュレーション ファイルの変更」(P. 3-22) を参照してください。</p> |
| proxy1_address | 必須 | IP フォンが使用するプライマリ SIP プロキシ サーバの IP アドレスを指定します。このアドレスは、ドットで区切られた十進数の IP 表記法で入力します。 |
| proxy1_port | オプション | <p>プライマリ SIP プロキシ サーバのポート番号を指定します。これは、SIP クライアントがメッセージを受信するポートです。デフォルト値は 5060 です。</p> <p> (注) IP フォンの回線を追加する場合、<code>proxyN_address</code> パラメータと <code>proxyN_port</code> パラメータを使用して、異なる IP フォン回線に別々のプロキシ アドレスを割り当てることができます。これらのパラメータ内の「N」は IP フォン回線を表します。「N」の値は 2 ~ 6 の値にすることができます。<code>proxyN_address</code> パラメータに「N」の値を指定しない場合、IP フォンはデフォルトとして <code>proxy1_address</code> パラメータを使用します。</p> |
| proxyN_address | オプション | 回線 1 以外の IP フォン回線が使用する SIP プロキシ サーバの IP アドレス、または DNS 名を指定します。IP アドレスの場合、ドット区切りの IP 10 進数表記を使用してください。 <code>proxyN_address</code> パラメータが FQDN に設定される場合、IP フォンは、Req-URI、To、および From フィールド内の FQDN を使用して、REGISTER および INVITE メッセージを送信します。ドット区切りの IP アドレスを使用したい場合は、 <code>proxyN_address</code> パラメータをドット区切りの IP アドレスとして設定する必要があります。 |
| proxyN_port | オプション | 回線 1 以外の IP フォン回線が使用する SIP プロキシ サーバのポート番号を指定します。 |
| remote_party_id | オプション | <p>Remote-Party-ID ヘッダーが通話者の ID (たとえば、名前と番号) のネットワーク検証、およびスクリーニングをサポートし、通話者のプライバシーを提供することを指定します。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 0 : Remote party ID が使用不可です。IP フォンは Remote Party ID の送受信を行いません。 1 : Remote party ID が使用可能です。IP フォンは Remote Party ID を送信し、Remote Party ID を受信することができます。 <p>デフォルト値は 0 です。</p> |

表 3-3 デフォルト SIP コンフィギュレーション ファイルのパラメータ (続き)

| パラメータ | 必須またはオプション | 説明 |
|------------------------|-----------------|--|
| semi_attended_transfer | オプション | 呼び出し音が鳴っているときに、発信者が在席転送の 2 番目のレグを転送できるかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 0 : 半在席転送が使用不可です。 1 : 半在席転送が使用可能です。 デフォルト値は 1 です。 |
| services_url | オプション | services BTXML ファイルの URL を指定します。この URL にアクセスするには、 Services ボタンを押します。たとえば、次の services_url を使用します。 「http://10.10.10.10/CiscoServices/Services.asp」 |
| sip_invite_retx | オプション | INVITE 要求を再送する最大回数を指定します。有効な値は、任意の正の整数です。デフォルト値は 6 です。 |
| sip_retx | オプション | INVITE 要求以外の SIP メッセージを再送する最大回数を指定します。有効な値は、任意の正の整数です。デフォルト値は 10 です。 |
| sntp_mode | オプション | 詳細については、「日付、時刻、および夏時間の設定」(P. 3-29) を参照してください。 |
| sntp_server | | |
| start_media_port | オプション | メディアの RTP 範囲の始まりを指定します。有効な値は 16,384 ~ 32,766 です。デフォルトは 16,384 です。 |
| sync | オプション | リモート リポートを実行する前に、syncinfo.xml ファイル内の値と比較する値を指定します。有効な値は、長さ 32 文字までの文字ストリングです。 |
| telnet_level | オプション | IP フォンの Telnet を使用可能にします。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 0 : Telnet は使用不可です。 1 : Telnet は使用可能であり、特権コマンドはありません。 2 : Telnet は使用可能であり、特権コマンドを実行できます。 デフォルト値は 0 です。 |
| tftp_cfg_dir | 必須 ¹ | IP フォン特有のコンフィギュレーション ファイルが保存される TFTP サブディレクトリのパスを指定します。 |
| time_format_24hr | オプション | ユーザ インターフェイスに表示される時刻のデフォルト形式を、12 時間制または 24 時間制のどちらにするか指定します。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 0 : デフォルトの表示形式は 12 時間制です。ただし、ユーザ インターフェイスを使用して 24 時間制に変更できます。 1 : デフォルトの表示形式は 24 時間制です。ただし、ユーザ インターフェイスを使用して 12 時間制に変更できます。 2 : 表示形式は 12 時間制であり、ユーザ インターフェイスを使用して 24 時間制に変更することはできません。 3 : 表示形式は 24 時間制であり、ユーザ インターフェイスを使用して 12 時間制に変更することはできません。 デフォルト値は 1 です。 |
| time_zone | オプション | 詳細については、「日付、時刻、および夏時間の設定」(P. 3-29) を参照してください。 |
| timer_invite_expires | オプション | SIP INVITE が満了するまでの時間数 (秒) を指定します。この値は、Expire ヘッダー フィールドで使用されます。有効な値は任意の正数ですが、推奨値は 180 秒です。デフォルト値は 180 です。 |

表 3-3 デフォルト SIP コンフィギュレーション ファイルのパラメータ (続き)

| パラメータ | 必須またはオプション | 説明 |
|------------------------|------------|---|
| timer_register_expires | オプション | REGISTRATION 要求が満了するまでの時間数 (秒) を指定します。この値は、Expire ヘッダー フィールドに挿入されます。有効な値は任意の正数ですが、推奨値は 3600 秒です。デフォルト値は 3600 です。 |
| timer_t1 | オプション | SIP メッセージの再伝送タイマーの最小値 (ミリ秒) を指定します。有効な値は、任意の正の整数です。デフォルト値は 500 です。 |
| timer_t2 | オプション | SIP メッセージの再伝送タイマーの最大値 (ミリ秒) を指定します。有効な値は、timer_t1 より大きい任意の正の整数です。デフォルト値は 4000 です。 |
| tos_media | オプション | 使用するメディア ストリームのタイプ オブ サービス (ToS) レベルを指定します。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 0 : IP_ROUTINE • 1 : IP_PRIORITY • 2 : IP_IMMEDIATE • 3 : IP_FLASH • 4 : IP_OVERRIDE • 5 : IP_CRITIC デフォルト値は 5 です。 |
| user_info | オプション | REGISTER メッセージ内の「user=」パラメータを設定します。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • none : 値は挿入されません。 • phone : 値 user=phone が、REGISTER の To、From、および Contact ヘッダーに挿入されます。 • ip : 値 user=ip が、REGISTER の To、From、および Contact ヘッダーに挿入されます。 デフォルト値は none です。 |
| voip_control_port | オプション | SIP メッセージに使用される UDP ポートを指定します。nat_enable = 1 である場合、すべての SIP REQUESTS は、UDP ソース ポートとして voip_control_port を使用します。有効な値は 1025 ~ 65,535 です。デフォルトは 5060 です。 |

1. IP フォン特有のコンフィギュレーション ファイルがサブディレクトリに置かれている場合は必須です。

次に示すのは、SIP のデフォルト コンフィギュレーション ファイルの例です。

```
# Image Version
image_version: "POS3-xx-y-zz"

# Proxy Server
proxy1_address: "proxy.company.com"
proxy2_address: ""
proxy3_address: ""
proxy4_address: ""
proxy5_address: ""
proxy6_address: ""

# Proxy Server Port (default - 5060)
proxy1_port:"5060"
proxy2_port:""
proxy3_port:""
proxy4_port:""
proxy5_port:""
proxy6_port:""

# Emergency Proxy info
proxy_emergency: "1.2.3.4"
proxy_emergency_port: "5060"
# Backup Proxy info
proxy_backup: "1.2.3.4"
proxy_backup_port: "5060"

# Proxy Registration (0-disable (default), 1-enable)
proxy_register: "1"

# Phone Registration Expiration [1-3932100 sec] (Default - 3600)
timer_register_expires: "180"

# Codec for media stream (g711ulaw (default), g711alaw, g729)
preferred_codec: "g711ulaw"

# TOS bits in media stream [0-5] (Default - 5)
tos_media: "5"

# In-band DTMF Settings (0-disable, 1-enable (default))
dtmf_inband: "1"

# Out-of-band DTMF Settings (none-disable, avt-avt enable (default), avt_always -
always avt )
dtmf_outofband: "avt"

# DTMF dB Level Settings (1-6dB down, 2-3db down, 3-nominal (default), 4-3db up, 5-6dB
up)
dtmf_db_level: "3"

# SIP Timers
timer_t1: "500" ; Default 500 ms
timer_t2: "4000" ; Default 4 sec
sip_retx: "10" ; Default 11
sip_invite_retx: "6" ; Default 7
timer_invite_expires: "180" ; Default 180 sec

# Setting for Message speed dial to Voice mail
messages_uri: "9195551000"

#***** Release 2 new configuration parameters *****

# TFTP Phone Specific Configuration File Directory
tftp_cfg_dir: "./"

# Time Server
sntp_mode: "directedbroadcast"
sntp_server: "172.16.10.150"
```

```

#sntp_server: "sntp.company.com"
time_zone: "EST"
dst_offset: "1"
dst_start_month:"April"
dst_start_day: ""
dst_start_day_of_week: "Sun"
dst_start_week_of_month: "1"
dst_start_time: "02"
dst_stop_month: "Oct"
dst_stop_day: ""
dst_stop_day_of_week:"Sunday"
dst_stop_week_of_month: "8"
dst_stop_time: "2"
dst_auto_adjust: "1"

# Do Not Disturb Control (0-off, 1-on, 2-off with no user control, 3-on with no user
control)
dnd_control: "0" ; Default 0 (Do Not Disturb feature is off)

# Caller ID Blocking (0-disabled, 1-enabled, 2-disabled no user control, 3-enabled no
user control)
callerid_blocking: "0" ; Default 0 (Disable sending all calls as anonymous)

# Anonymous Call Blocking (0-disabled, 1-enabled, 2-disabled no user control,
3-enabled no user control)
anonymous_call_block: "0" ; Default 0 (Disable blocking of anonymous calls)

# DTMF AVT Payload (Dynamic payload range for AVT tones - 96-127)
dtmf_avt_payload: "101" ; Default 101

# XML file that specifies the dial plan desired
dial_template: "dialplan"

# Network Media Type (auto, full100, full110, half100, half10)
network_media_type: "auto"

#Autocompletion During Dial (0-off, 1-on [default])
autocomplete: "1"

#Time Format (0-12hr, 1-24hr [default])
time_format_24hr: "1"

#Enable or Disable VAD (0-disabled (default), 1-enabled)
enable_vad: 0

telnet_level: 0
phone_password: "cisco"

#URL for External XML Services and Phone Logo
services_url: "http://www.company.com/phone/services.asp"
directory_url: "http://www.company.com/phone/companydirectory.asp"
logo_url: "http://www.company.com/phone/logo.bmp"

```

IP フォン特有の SIP コンフィギュレーション ファイルの変更

コンフィギュレーションファイルを変更する前に、次の点に注意してください。

- 「[デフォルトの SIP コンフィギュレーション ファイルの変更](#)」(P. 3-10) で説明しているガイドラインの内容を再度確認してください。
- 回線パラメータ (`linex` のように識別されるもの) は、IP フォンの回線を定義します。E メールアドレスを使用するように回線を設定した場合、その回線は E メールアドレスでしか呼び出せません。同様に、番号を使用するように回線を設定した場合、その回線は番号でしか呼び出せません。それぞれの回線には、別々のプロキシを設定できます。

IP フォン特有の SIP コンフィギュレーション ファイルを変更するには、ASCII テキスト エディタを使用して、ファイルを開きます。そのファイル内で、表 3-4 に表示されている SIP パラメータの値を指定します。すべての変数について、*x* は数字 1 ~ 6 を示しています。

表 3-4 IP フォン特有の設定パラメータ

| パラメータ | 必須またはオプション | 説明 |
|-------------------|-----------------|---|
| linex_authname | 必須 ¹ | 初期化時にプロキシ サーバによって登録が要求される場合、IP フォンが認証に使用する名前。登録が可能なときに、linex_authname パラメータの値が指定されていない場合は、回線 1 に対して定義されたパラメータ値が使用されます。回線 1 に対してパラメータ値が定義されていない場合、デフォルトの line1_authname として UNPROVISIONED が使用されます。 |
| linex_displayname | オプション | 発信者の識別のために表示される識別名。たとえば、このパラメータに Jon Doe と指定すれば、発信者 ID を受け取った IP フォン側に jdoe@company.com と表示される代わりに、John Doe と表示されます。このパラメータの値を指定しない場合は、識別名は使用されません。 |
| linex_name | 必須 | 登録時に使用する番号または E メール アドレス。番号を入力するときは、ダッシュを含めずに番号だけを入力します。たとえば、555-1212 は 5551212 のように入力します。E メール アドレスを入力する場合は、ホスト名を含めずに E メール ID を入力します。 |
| linex_password | 必須 ¹ | 初期化時にプロキシ サーバによって登録が要求される場合、IP フォンが認証に使用するパスワード。 登録が可能なときに、linex_password パラメータの値が指定されていない場合は、回線 1 に対して定義されたパラメータ値が使用されます。回線 1 に対して値が定義されていない場合、デフォルトの line1_password として UNPROVISIONED が使用されます。 |
| linex_shortcode | オプション | linex_name の長さがディスプレイ領域の使用可能なスペースに収まらない場合に、IP フォンの LCD に表示する、linex_name に関連した名前または番号。たとえば、linex_name の値が電話番号 111-222-333-4444 である場合、LCD には代わりに 34444 が表示されるようにするには、このパラメータに 34444 を指定します。 または、linex_name パラメータの値が E メール アドレス「username@company.com」である場合、LCD に代わりにユーザ名だけが表示されるようにするには、「username」を指定します。 このパラメータは、表示用だけに使用されます。このパラメータに値が指定されていない場合、linex_name 変数の値が表示されます。 |
| phone_label | オプション | LCD 最上部のステータス ラインに表示するラベル。このフィールドは、エンドユーザのディスプレイ専用です。たとえば、IP フォンのラベルに「John Doe's phone」と表示できます。IP フォン ラベルの指定には、11 文字まで使用できます。 TFTP サーバ（ルート ディレクトリ、または IP フォン特有のコンフィギュレーション ファイルがすべて入っているサブディレクトリ）にファイルを保存します。ファイル名を SIPXXXXYYYYZZZ.cnf にします。ここで、XXXXYYYYZZZ は IP フォンの MAC アドレスです。MAC アドレスを表わす部分には英大文字を使用し、拡張子 cnf には小文字を使用してください（たとえば、SIP00503EFFD842.cnf）。 |

1. 登録が可能であり、プロキシ サーバが認証を必要とする場合、回線 1 に必須です。

次に示すのは、IP フォン特有のコンフィギュレーション ファイルの例です。

```
line1_displayname: "jdoe43"
line1_name:       "43"
line2_displayname: "jdoe44"
line2_name:       "44"
line3_displayname: "pgatour"
line3_name:       "duval"
line4_displayname: "jdoe46"
line4_name:       "46"
line5_displayname: "jdoe47"
line5_name:       "47"
line6_displayname: "jdoe48"
line6_name:       "48"
phone_label:     "jdoe4X"
phone_prompt:    "John-43"

proxy1_address: 1.2.3.4
proxy2_address: 1.2.3.4
proxy3_address: 1.2.3.4
proxy4_address: 1.2.3.4
proxy5_address: 1.2.3.4
proxy6_address: 1.2.3.4
proxy1_port: 5060
proxy2_port: 5060
proxy3_port: 5060
proxy4_port: 5060
proxy5_port: 5060
proxy6_port: 5060

callerid_blocking: 0
dtmf_outofband: avt
network_media_type: auto
tos_media: 5
dtmf_avt_payload: 101
time_zone: EST
call_waiting: 1
cnf_join_enable : 1
semi_attended_transfer : 1
```

IP フォン上での SIP パラメータの変更

TFTP サーバを使用して SIP パラメータを設定しなかった場合、IP フォンを接続した後で、IP フォン上から直接、手作業でパラメータを設定できます。

始める前に

- 「設定モードのロック解除」(P. 3-3) の説明に従って、設定モードのロックを解除します。デフォルトでは、コール機能に影響を与える可能性のある設定値をエンドユーザが変更できないように、SIP パラメータはロックされています。
- 「Cisco SIP IP Phone のメニュー インターフェイスの使用」(P. 2-15) に説明されている、Cisco SIP IP phone メニューの使用に関するガイドラインの内容を再度確認します。
- 回線パラメータ (linex のように識別されるもの) は、IP フォンの回線を定義します。E メールアドレスを使用するように回線を設定した場合、その回線は E メールアドレスでしか呼び出せません。同様に、番号を使用するように回線を設定した場合、その回線は番号でしか呼び出せません。
- Preferred Codec および Out of Band DTMF パラメータを設定するときは、必要なオプションが表示されるまで **Change** ソフト キーを押し、次に **Save** ソフト キーを押します。
- 変更を行った後、「設定モードのロック」(P. 3-3) の説明のとおり設定モードを再度ロックします。

ステップ 1 settings キーを押します。Settings メニューが表示されます。

- ステップ 2 **SIP Configuration** を選択します。SIP Configuration メニューが表示されます。
- ステップ 3 **Line 1 Settings** を選択します。
- ステップ 4 **Select** ソフト キーを押します。Line 1 Configuration メニューが表示されます。
- ステップ 5 必要に応じて、表 3-5 に表示されているパラメータを選択し、**Select** ソフト キーを押して設定します。
- ステップ 6 **Back** ソフト キーを押して、Line 1 Configuration メニューを終了します。
- ステップ 7 IP フォンに対して追加の回線を設定する場合は、次の **Line x Settings** を選択し、**Select** ソフト キーを押してステップ 5 とステップ 6 を繰り返してから、ステップ 8 に進みます。
- ステップ 8 回線設定値のほかに、表 3-6 に表示されている SIP Configuration メニューのパラメータを選択し、**Select** を押して設定できます。
- ステップ 9 パラメータの設定が完了したら、**Save** ソフト キーを押して変更内容を保存し、SIP Configuration メニューを終了します。



注意

変更を完了したら、「設定モードのロック」(P. 3-3) の説明に従って IP フォンを必ずロックしてください。

表 3-5 SIP 設定パラメータ

| パラメータ | 必須またはオプション | |
|-------------------------|-----------------|---|
| Authentication Password | 必須 ¹ | 初期化時にプロキシ サーバによって登録が要求される場合、IP フォンが認証に使用するパスワード。登録が可能なときに、Authentication Password パラメータの値が指定されていないと、デフォルト論理パスワードが使用されます。デフォルト論理パスワードは SIPmac-address です (mac-address は IP フォンの MAC アドレスです)。 |
| Authentication Name | 必須 ¹ | 初期化時にプロキシ サーバによって登録が要求される場合、IP フォンが認証に使用する名前。 |
| Display Name | オプション | 発信者の識別のために表示される識別名。たとえば、このパラメータに Jon Doe と指定すれば、発信者 ID を受け取った IP フォン側に jdoe@company.com と表示される代わりに、John Doe と表示されます。このパラメータの値を指定しない場合は、Name の値が使用されます。 |
| Name | 必須 | 登録時に使用する記述番号または E メールアドレス。番号を入力するときは、ダッシュを含めずに番号だけを入力します。たとえば、555-1212 は 5551212 のように入力します。E メールアドレスを入力する場合は、ホスト名を含めずに E メール ID を入力します。 |
| Proxy Address | 必須 | IP フォンが使用するプライマリ SIP プロキシ サーバの IP アドレス。このアドレスは、ドットで区切られた十進数の IP 表記法で入力します。 |

表 3-5 SIP 設定パラメータ (続き)


| パラメータ | 必須またはオプション | |
|------------|------------|---|
| Proxy Port | オプション | プライマリ SIP プロキシ サーバのポート番号。これは、SIP クライアントが使用するポートです。デフォルト値は 5060 です。 |
| Short Name | オプション | linex_name の値がディスプレイ領域に収まらない場合に IP フォンの LCD に表示する、linex_name に関連した名前または番号。linex_name の値が電話番号 111-222-333-4444 である場合、LCD には代わりに 34444 が表示されるようにするには、このパラメータに 34444 を指定します。または、linex_name パラメータの値が E メール アドレス「username@company.com」である場合、LCD にユーザ名だけが表示されるようにするには、「username」を指定します。このパラメータは、表示用だけに使用されます。このパラメータに値が指定されていない場合、Name 変数の値が表示されます。 |

1. 登録が可能である場合は必須。

表 3-6 追加の SIP 設定パラメータ

| パラメータ | 必須またはオプション | |
|----------------------|------------|--|
| Backup Proxy | オプション | バックアップ プロキシ サーバまたはゲートウェイの IP アドレス。このアドレスは、ドットで区切られた十進数の IP 表記法で入力します。 |
| Backup Proxy Port | オプション | バックアップ プロキシ サーバのポート番号。デフォルトは 5060 です。 |
| Emergency Proxy | オプション | 緊急プロキシ サーバまたはゲートウェイの IP アドレス。このアドレスは、ドットで区切られた十進数の IP 表記法で入力します。 |
| Emergency Proxy Port | オプション | 緊急プロキシのポート番号。デフォルトは 5060 です。 |
| Enable VAD | オプション | VAD を使用可能にするか、使用不可にするかを指定します。 |
| End Media Port | オプション | メディアの RTP 範囲の終わり。有効な値は 16,384 ~ 32,766 です。デフォルトは 32,766 です。 |
| Messages URI | オプション | ボイスメールを確認するためにコールする番号。この番号は、 Messages キーが押されたときにコールされます。 |
| NAT Address | オプション | NAT またはファイアウォール サーバの WAN IP アドレス。ドット区切りの IP アドレスまたは DNS 名のどちらかを使用できます (レコードのみ)。 |
| NAT Enabled | オプション | NAT を使用不可にするには No を選択します。NAT を使用可能にするには Yes を選択します。 |
| Out of Band DTMF | オプション | アウトオブバンド シグナリングの検出と生成 (ゲートウェイの IP 側でのトーン検出) を行うかどうか、行う場合には、その時期を指定します。Cisco SIP IP phone は、AVT トーン方式によるアウトオブバンド シグナリングをサポートします。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • none : アウトオブバンド DTMF デジットを生成しません。 • avt : リモート側から要求された場合に、アウトオブバンド DTMF デジットを生成します (インバンド DTMF シグナリングを使用不可にします)。それ以外の場合は、アウトオブバンド DTMF デジットを生成しません。 • avt_always : 常に、アウトオブバンド DTMF デジットを生成します。このオプションは、インバンド DTMF シグナリングを使用不可にします。 デフォルト値は avt です。 |
| Outbound Proxy | オプション | 発信プロキシ サーバの IP アドレス。ドット区切りの IP アドレスまたは DNS 名のどちらかを使用できます。 |

表 3-6 追加の SIP 設定パラメータ (続き)

| パラメータ | 必須またはオプション | |
|---------------------|-----------------|--|
| Outbound Proxy Port | オプション | 発信プロキシサーバのポート番号。デフォルト値は 5060 です。 |
| Phone Label | オプション | LCD 最上部の状況行に表示するラベル。このフィールドは、エンドユーザのディスプレイ専用です。たとえば、IP フォンのラベルに「John Doe's phone」と表示できます。IP フォンラベルの指定には、11 文字まで使用できます。 |
| Preferred Codec | オプション | コールの発信時に使用するコーデック。有効な値は、g711alaw、g711μlaw、g729a です。デフォルト値は g711μlaw です。 |
| Register Expires | オプション | REGISTRATION 要求が満了するまでの時間数 (秒)。この値は、Expire ヘッダーフィールドで使用されます。有効な値は任意の正数ですが、推奨値が 3600 秒です。デフォルト値は 3600 です。 |
| Register with Proxy | オプション | <p>初期化時に IP フォンをプロキシサーバに登録する必要があるかどうかを指定します。有効な値は Yes と No です。No ソフトキーを選択すると、初期化時の登録が不可になります。Yes ソフトキーを選択すると、初期化時の登録が可能になります。デフォルトは No です。IP フォンを初期化してプロキシサーバに登録した後、このパラメータの値を No に変更すると、IP フォンはプロキシサーバから登録解除されます。登録を再度開始するには、このパラメータの値を再度 Yes に変更します。</p> <p> (注) 登録を可能にし、認証が必要となる場合は、Authentication Name と Authentication Password のパラメータの値を指定する必要があります。</p> |
| Start Media Port | オプション | メディアの RTP 範囲の始まり。有効な値は 16,384 ~ 32,766 です。デフォルトは 16,384 です。 |
| TFTP Directory | 必須 ¹ | IP フォン特有のコンフィギュレーションファイルが保存される TFTP サブディレクトリのパス。 |
| VoIP Control Port | オプション | SIP メッセージに使用される UDP ポート。nat_enable = 1 である場合、すべての SIP REQUESTS は、UDP ソースポートとして voip_control_port を使用します。有効な値は 1,025 ~ 65,535 です。デフォルトは 5060 です。 |

1. IP フォン特有のコンフィギュレーションファイルがサブディレクトリに置かれている場合は必須です。

コール設定値の変更

コールの設定値を変更できるのは、システム管理者が各設定値の設定変数を 0 または 1 に設定している場合だけです。変数が 2 または 3 に設定される場合、**Call Preferences** メニューでコールの設定値を変更することはできません。各パラメータについては、[表 3-2](#) を参照してください。

Call Preferences メニューを使用して各 IP フォンのコール設定値を変更する手順は、次のとおりです。

-
- ステップ 1 **settings** キーを押します。Settings メニューが表示されます。
 - ステップ 2 **Call Preferences** を選択します。Call Preferences 設定メニューが表示されます。
 - ステップ 3 **Select** ソフト キーを押します。
 - ステップ 4 次のパラメータを選択し、**Select** ソフト キーを押して設定します。
 - Anonymous Call Block
 - Auto-Complete Numbers
 - Caller ID Blocking
 - Call Hold Ringback
 - Call Waiting
 - Do Not Disturb
 - ステップ 5 **Back** ソフト キーを押して終了します。
 - ステップ 6 パラメータの設定が完了したら、**Save** ソフト キーを押して変更内容を保存し、終了します。
-

日付、時刻、および夏時間の設定

現在の日付と時刻は、Cisco SIP IP phone 上で SNTP によって維持され、IP フォンの LCD に表示されます。現在の日付と時刻が維持されるほかに、DST（夏時間）とタイムゾーンの設定も維持されます。DST の設定値は、絶対コンフィギュレーション（たとえば、4月1日に始まり、10月1日に終わる）、または相対コンフィギュレーション（たとえば、4月の第1日曜日に始まり、10月の末日に終わる）を使用して指定できます。

日付の形式は、`date_format` パラメータを使用して設定できます。

世界のタイムゾーンの省略形をサポートします。これらの省略形は、すべて大文字でなければなりません。

日付と時刻に関連したパラメータは、`SIPDefault.cnf` ファイル内で定義することをお勧めします。タイムゾーンパラメータは、手作業で IP フォン上で設定するか、コンフィギュレーションファイル内で設定できます。

始める前に

日付、時刻、タイムゾーン、および DST の設定値を指定する前に、次の点に注意してください。

- 「[デフォルトの SIP コンフィギュレーションファイルの変更](#)」(P. 3-10) で説明しているガイドラインの内容と制約事項を再度確認してください。
- 絶対 DST または相対 DST のどちらを設定するか決定します。
- Sntp パラメータは、IP フォンが SNTP サーバから現在の時刻を取得する方法を指定します。SNTP パラメータを設定する前に、[表 3-7](#) と [表 3-8](#) のガイドラインの内容を再度確認してください。

[表 3-7](#) では、`sntp_server` パラメータにヌル値 (0.0.0.0) が指定された場合に行われるアクションの一覧を示します。

表 3-7 `sntp_server` パラメータがヌル値に設定された場合の `sntp_mode` に応じたアクション

| <code>sntp_server=0.0.0.0</code> | <code>sntp_mode=unicast</code> | <code>sntp_mode=multicast</code> | <code>sntp_mode=anycast</code> | <code>sntp_mode=directedbroadcast</code> |
|----------------------------------|--------------------------------|---|---|--|
| 送信 | なし。 通信相手のサーバが不明です。 | なし。 マルチキャストモードでは、SNTP 要求は送信されません。 | ローカル ネットワーク ブロードキャスト アドレスへの SNTP パケット。 最初の SNTP 要求が受信された後、IP フォンはユニキャスト モードに切り替わり、最初に応答したサーバが SNTP サーバとして設定されます。 | ローカル ネットワーク ブロードキャスト アドレスへの SNTP パケット。 最初の SNTP 応答が受信された後、IP フォンはマルチキャスト モードに切り替わります。 |
| 受信 | なし。 通信相手のサーバが不明です。 | ネットワーク上にある任意のサーバのローカル ネットワーク ブロードキャスト アドレスから、SNTP/NTP マルチキャスト アドレスを経由した SNTP データ。 | ネットワーク ブロードキャスト要求に最初に応答した SNTP サーバからのユニキャスト SNTP データ。 | SNTP/NTP マルチキャスト アドレス、およびネットワーク上にある任意のサーバのローカル ネットワーク ブロードキャスト アドレスからの SNTP データ。 |

[表 3-8](#) は、`sntp_server` パラメータに有効な IP アドレスが指定された場合に行われるアクションの一覧です。

表 3-8 snntp_server パラメータが IP アドレスに設定された場合の snntp_mode に応じたアクション

| snntp_server = 192.168.1.9 | snntp_mode=unicast | snntp_mode=multicast | snntp_mode=anycast | snntp_mode=directedbroadcast |
|----------------------------|--|---|--|--|
| 送信 | SNTP サーバへの SNTP 要求。 | なし。 マルチキャストモードでは、SNTP 要求は送信されません。 | SNTP サーバへの SNTP 要求。 | SNTP サーバへの SNTP パケット。 最初の SNTP 応答が受信された後、IP フォンはマルチキャストモードに切り替わります。 |
| 受信 | その SNTP サーバからの SNTP 応答。他の SNTP サーバからの応答は無視します。 | SNTP/NTP マルチキャストアドレスを経由した、ローカル ネットワーク ブロードキャストアドレスからの SNTP データ。 | その SNTP サーバからの SNTP 応答。他の SNTP サーバからの応答は無視します。 | SNTP/NTP マルチキャストアドレスと、ローカル ネットワーク ブロードキャストアドレスからの SNTP データ。他の SNTP サーバからの応答は無視します。 |

ステップ 1 ASCII エディタを使用して、SIPDefault.cnf ファイルを開き、必要に応じて、次の SNTP 特有の SIP パラメータの値を定義または変更します。

- **snntp_mode** : (必須) IP フォンが SNTP サーバをリスン (聴取) するモード。有効な値は、unicast、multicast、anycast、または directedbroadcast です。
snntp_server パラメータの値に応じたこれらの値の効果については、表 3-7 と表 3-8 を参照してください。
- **snntp_server** : (必須) IP フォンが時刻データを取得する元の SNTP サーバの IP アドレス。
snntp_server パラメータの値に応じたこれらの値の効果については、表 3-7 と表 3-8 を参照してください。
- **time_zone** : (必須) IP フォンの設置場所のタイムゾーン。有効な値は、表 3-9 に表示されているタイムゾーンの省略形です。これらの省略形には大文字小文字の区別があり、すべて大文字でなければなりません。

表 3-9 タイムゾーンの省略形

| 省略形 | GMT からの 相対時間 | 都市 | タイムゾーン名 |
|------|-----------------|--------|--|
| IDL | GMT-12:00 | エニウェトク | IDL (国際日付変更線)、 IDLW (国際日付変更線の西側) |
| NT | GMT-11:00 | ミッドウェー | BT (ベーリング時間)、NT (ノーム時間) |
| AHST | GMT-10:00 | ハワイ | AHST (アラスカ/ハワイ標準時)、 HST (ハワイ標準時)、 CAT (中央アラスカ時間) |
| IMT | GMT-09:30 | マルケサス島 | マルケサス島 |
| YST | GMT-09:00 | ユーコン | YST (ユーコン標準時) |
| PST | GMT-08:00 | ロサンゼルス | PST (太平洋標準時) |
| MST | GMT-07:00 | フェニックス | MST (アメリカ山岳標準時)、 PDT (太平洋夏時間) |

表 3-9 タイムゾーンの省略形 (続き)

| 省略形 | GMT からの 相対時間 | 都市 | タイムゾーン名 |
|------|-----------------|-----------------|---|
| CST | GMT-06:00 | ダラス、 メキシコシティ | CST (中央標準時)、 MDT (アメリカ山岳夏時間)、Chicago |
| EST | GMT-05:00 | ニューヨーク | EST (東部標準時)、 CDT (中央部夏時間)、NYC |
| AST | GMT-04:00 | ラパス | AST (大西洋標準時)、 EDT (東部夏時間) |
| NST | GMT-03:30 | ニューファンドランド | NST (ニューファンドランド標準時) |
| BST | GMT-03:00 | ブエノスアイレス | BST (ブラジル標準時)、 ADT (大西洋夏時間)、 GST (グリーンランド標準時) |
| AT | GMT-02:00 | 中大西洋 | AT (アゾレス時間) |
| WAT | GMT-01:00 | アゾレス | WAT (西アフリカ時間) |
| GMT | GMT 00:00 | ロンドン | GMT (グリニッジ標準時)、 WET (西ヨーロッパ時間)、UT (世界時) |
| CET | GMT+01:00 | パリ | CET (中央ヨーロッパ時間)、 MET (中央ヨーロッパ時間)、 BST (イギリス夏時間)、 MEWT (中央ヨーロッパ冬時間)、 SWT (スウェーデン冬時間)、 FWT (フランス冬時間) |
| EET | GMT+02:00 | アテネ、ローマ | EET (東ヨーロッパ時間)、USSR-zone1、 MEST (中央ヨーロッパ夏時間)、 FST (フランス夏時間) |
| BT | GMT+03:00 | バグダッド、モスクワ | BT (バグダッド時間)、 USSR-zone2 |
| IT | GMT+03:30 | テヘラン | IT (イラン時間) |
| ZP4 | GMT+04:00 | アブダビ | USSR-zone3、ZP4 (GMT プラス 4 時間) |
| AFG | GMT+04:30 | カブール | アフガニスタン |
| ZP5 | GMT+05:00 | イスラマバード | USSR-zone4、 ZP5 (GMT プラス 5 時間) |
| IST | GMT+05:30 | ボンベイ、デリー | IST (インド標準時) |
| ZP6 | GMT+06:00 | コロンボ | USSR-zone5、 ZP6 (GMT プラス 6 時間) |
| SUM | GMT+06:30 | 北スマトラ | NST (北スマトラ時間) |
| WAST | GMT+07:00 | バンコク、ハノイ | SST (南スマトラ時間)、USSR-zone6、 WAST (オーストラリア西部標準時) |
| HST | GMT+08:00 | 北京、香港 | CCT (中国湾岸時間)、HST (香港標準時)、 USSR-zone7、 WADT (オーストラリア西部夏時間) |
| JST | GMT+09:00 | 東京、ソウル | JST (日本標準時/東京)、KST (韓国標準時)、 USSR-zone8 |
| CAST | GMT+09:30 | ダーウィン | SAST (オーストラリア南部標準時)、CAST (オーストラリア中部標準時) |

表 3-9 タイムゾーンの省略形 (続き)

| 省略形 | GMT からの 相対時間 | 都市 | タイムゾーン名 |
|------|-----------------|------------|---|
| EAST | GMT+10:00 | ブリスベーン、グアム | GST (グアム標準時)、USSR-zone9、 EAST (オーストラリア東部標準時) |
| EADT | GMT+11:00 | ソロモン諸島 | USSR-zone10、 EADT (オーストラリア東部夏時間) |
| NZST | GMT+12:00 | オークランド | NZT (ニュージーランド時間 / オークランド)、 NZST (ニュージーランド標準時)、 IDLE (国際日付変更線の東側) |

ステップ 2 共通の DST 設定値を指定するには、次のパラメータに値を指定します。

- **dst_offset** : DST が有効になっているときの IP フォンの時刻からのオフセット (相対時間)。DST の終了に合わせて、指定したオフセットは IP フォンの時刻に適用されなくなります。有効な値は、時 / 分、-時 / 分、+時 / 分、時、-時、および +時です。
- **dst_auto_adjust** : DST を IP フォン上で自動的に調整するかどうか。有効な値は 0 (DST の自動調整を使用不可にする) または 1 (DST の自動調整を使用可能にする) です。デフォルト値は 1 です。
- **dst_start_month** : DST が始まる月。有効な値は、January、February、March、April、May、June、July、August、September、October、November、および December、または 1 ~ 12 (1 は 1 月、12 は 12 月) です。月の名前を指定する場合、値には大文字小文字の区別はありません。米国では、デフォルト値は April です。
- **dst_stop_month** : DST が終わる月。有効な値は、January、February、March、April、May、June、July、August、September、October、November、および December、または 1 ~ 12 (1 は 1 月、12 は 12 月) です。月の名前を指定する場合、値には大文字小文字の区別はありません。米国では、デフォルト値は October です。
- **dst_start_time** : DST が始まる日の時刻。有効な値は、時 / 分 (02/00) または時 (02:00) です。米国では、デフォルト値は 02 : 00 です。
- **dst_stop_time** : DST が終わる日の時刻。有効な値は、時 / 分 (02/00) または時 (02:00) です。米国では、デフォルト値は 02 : 00 です。

ステップ 3 絶対 DST を設定するには、次のパラメータに値を指定します。相対 DST を設定する場合は、[ステップ 4](#)に進みます。

- **dst_start_day** : DST が始まる月の日。
有効な値は、日を指定する場合は 1 ~ 31、相対 DST を指定する場合は 0 です。0 を指定すると、このフィールドは無視され、dst_start_day_of_week パラメータの値が代わりに使用されます。
- **dst_stop_day** : DST が終わる月の日。
有効な値は、日を指定する場合は 1 ~ 31、相対 DST を指定する場合は 0 です。0 を指定すると、このフィールドは無視され、dst_stop_day_of_week パラメータの値が代わりに使用されます。

ステップ 4 相対 DST を設定するには、次のパラメータに値を指定します。

- **dst_start_day_of_week** : DST が始まる曜日。
有効な値は、Sunday または Sun、Monday または Mon、Tuesday または Tue、Wednesday または Wed、Thursday または Thu、Friday または Fri、Saturday または Sat、Sunday または Sun、あるいは 1 ~ 7 (1 は日曜日、7 は土曜日) です。曜日の名前を指定する場合、値に大文字小文字の区別はありません。米国では、デフォルト値は Sunday です。

- `dst_start_week_of_month` : DST が始まる月の週。
有効な値は 1 ~ 6 と 8 です。1 は第 1 週、その後の数値は以降の週を示し、8 は最終週が何週目かに関係なく月の最終週を指定します。米国では、デフォルト値は 1 です。
- `dst_stop_day_of_week` : DST が終わる曜日。
有効な値は、`Sunday` または `Sun`、`Monday` または `Mon`、`Tuesday` または `Tue`、`Wednesday` または `Wed`、`Thursday` または `Thu`、`Friday` または `Fri`、`Saturday` または `Sat`、`Sunday` または `Sun`、あるいは 1 ~ 7 (1 は日曜日、7 は土曜日) です。曜日の名前を指定する場合、値に大文字小文字の区別はありません。米国では、デフォルト値は `Sunday` です。
- `dst_stop_week_of_month` : DST が終わる月の週。
有効な値は 1 ~ 6 と 8 です。1 は第 1 週、その後の数値は以降の週を示し、8 は最終週が何週目かに関係なく月の最終週を指定します。米国では、デフォルト値は 8 です。

ステップ 5 ファイルを同じファイル名、`SIPDefault.cnf` で、TFTP サーバのルート ディレクトリに保存します。

次に示すのは、絶対 DST コンフィギュレーションの設定例です。

```
time_zone :PST
dst_offset : 01/00
dst_start_month :April
dst_start_day : 1
dst_start_time : 02/00
dst_stop_month :October
dst_stop_day : 1
dst_stop_time : 02/00
dst_stop_autoadjust : 1
```

相対 DST コンフィギュレーションの設定例を次に示します。

```
time_zone :PST
dst_offset : 01/00
dst_start_month :April
dst_start_day : 0
dst_start_day_of_week :Sunday
dst_start_week_of_month : 1
dst_start_time : 02/00
dst_stop_month :October
dst_stop_day : 0
dst_stop_day_of_week :Sunday
dst_stop_week_of_month : 8
dst_stop_time : 02/00
dst_stop_autoadjust :
```

ローカル定義設定値の消去

IP フォン上で設定されたローカル定義のネットワーク設定値と SIP 設定値は、消去できます。

ローカル定義のネットワーク設定値の消去

ローカル定義のネットワーク設定値を消去すると、値はデフォルト値にリセットされます。

始める前に

- 「設定モードのロック解除」(P. 3-3) の説明に従って、設定モードのロックを解除します。
- IP フォン上で DHCP を使用不可にした場合、IP フォンの設定値を消去すると、DHCP が再び使用可能になります。
- Erase Config パラメータを選択するときは、下矢印を押してスクロールして、このパラメータを選択するか、このパラメータを表す数字 (LCD 上のパラメータ名の左側に表示) のキーを押してください。

ステップ 1 **settings** キーを押します。Settings メニューが表示されます。

ステップ 2 **Network Configuration** を選択します。

ステップ 3 **Select** ソフト キーを押します。Network Configuration 設定値が表示されます。

ステップ 4 **Erase Configuration** を選択します。

ステップ 5 **Yes** ソフト キーを押します。

ステップ 6 **Save** ソフト キーを押します。IP フォンは、新しい情報をフラッシュ メモリ内にプログラムし、リセットします。

ローカル定義の SIP 設定値の消去

ローカル定義の SIP 設定値を消去すると、値はデフォルト値にリセットされます。



(注)

各 IP フォンが TFTP サーバを使用して SIP パラメータを取り込むように、システムをセットアップしてある場合、パラメータが定義されているコンフィギュレーション ファイルを編集して、そのパラメータを削除する必要があります。パラメータを削除する場合、ファイル内の変数を除去するか、その値をヌル値「」または「UNPROVISIONED」に変更してください。変数とその値の両方を除去すると、IP フォンは、フラッシュ メモリに保存されている、その変数の設定値を使用します。



(注)

telnet_level パラメータが、特権コマンドを実行できるように設定されている場合、SIP コンフィギュレーション全体を消去できます。IP フォンがコンフィギュレーション ファイルを取り出すことができるように、**erase_protflash** コマンドを使用してください。

始める前に

「設定モードのロック解除」(P. 3-3) の説明に従って、設定モードのロックを解除します。

-
- ステップ 1 **settings** キーを押します。Settings メニューが表示されます。
 - ステップ 2 **SIP Configuration** を選択します。
 - ステップ 3 **Select** ソフト キーを押します。SIP Configuration 設定値が表示されます。
 - ステップ 4 設定値を消去したいパラメータを選択します。
 - ステップ 5 **Edit** ソフト キーを押します。
 - ステップ 6 現在の値を削除するには、<< ソフト キーを押します。
 - ステップ 7 **Validate** ソフト キーを押して、変更内容を保存して Edit パネルを終了します。
 - ステップ 8 回線パラメータを変更している場合は、**Back** ソフト キーを押して Line Configuration パネルを終了します。
 - ステップ 9 **Save** ソフト キーを押します。IP フォンは、新しい情報をフラッシュ メモリ内にプログラムし、リセットします。
-

ステータス情報へのアクセス

settings キーを使用して、数種類のステータス情報にアクセスできます。**settings** キーを使用して入手できる情報は、システム管理に役立ちます。ステータス情報にアクセスするには、**settings** を選択し、Settings メニューの **Status** を選択します。Status メニューから、次の3つのオプションが使用できます。

- Status Messages : 診断メッセージを表示します。
- Network Status : パフォーマンス メッセージを表示します。
- Firmware Version : IP フォンの現行ファームウェア バージョンに関する情報を表示します。

Setting Status メニューを使用して入手できるステータス メッセージの他に、現在のコールに関するステータス メッセージも入手できます。

ステータス メッセージの表示

ネットワーク問題の診断に使用できるステータス メッセージを表示する手順は、次のとおりです。

-
- ステップ 1 **Settings** キーを押します。Settings メニューが表示されます。
 - ステップ 2 **Status** を選択します。
 - ステップ 3 **Select** ソフト キーを押します。Setting Status メニューが表示されます。
 - ステップ 4 **Status Messages** を選択します。
 - ステップ 5 **Select** ソフト キーを押します。Status Messages パネルが表示されます。
 - ステップ 6 Status Messages パネルを終了するには、**Exit** ソフト キーを押します。
-

ネットワーク統計の表示

IP フォンおよびネットワーク パフォーマンスに関する統計情報を表示する手順は、次のとおりです。

-
- ステップ 1 **Settings** キーを押します。Settings メニューが表示されます。
 - ステップ 2 **Status** を選択します。
 - ステップ 3 **Select** ソフト キーを押します。Setting Status メニューが表示されます。
 - ステップ 4 **Network Statistics** を選択します。
 - ステップ 5 **Select** ソフト キーを押します。Network Statistics パネルが表示されます。

このパネルには、次の情報が表示されます。

- Rcv : スイッチを通さずに、IP フォンが受信したパケットの数。
- Xmit : スイッチを通さずに、IP フォンが送信したパケットの数。

- REr : IP フォンが受信した、エラーが含まれているパケットの数。
- BCast : IP フォンが受信したブロードキャストパケットの数。
- Phone State Message : IP フォンの状況を示す TCP メッセージ。可能なメッセージは、次のとおりです。
 - Phone Initialized : IP フォンの電源オン以降、TCP 接続は切断されていません。
 - Phone Closed TCP : IP フォンによって TCP 接続がクローズされました。
 - TCP Timeout : 再試行のタイムアウトにより、TCP 接続がクローズされました。
 - Error Code : TCP 接続がクローズされた異常理由を示すエラーメッセージ。
- Elapsed Time : 前回の電源のオフ→オン間に経過した時間の長さ (日数、時間数、分数、および秒数)。
- Port 0 Full, 100 : ネットワークはリンク状態にあり、オートネゴシエーションにより全二重 100 Mbps 接続になっていることを示します。
- Port 0 Half, 100 : ネットワークはリンク状態にあり、オートネゴシエーションにより半二重 100 Mbps 接続になっていることを示します。
- Port 0 Full, 10 : ネットワークはリンク状態にあり、オートネゴシエーションにより全二重 10 Mbps 接続になっていることを示します。
- Port 0 Half, 10 : ネットワークはリンク状態にあり、オートネゴシエーションにより半二重 10 Mbps 接続になっていることを示します。
- Port 1 Full, 100 : ネットワークはリンク状態にあり、オートネゴシエーションにより全二重 100 Mbps 接続になっていることを示します。
- Port 1 Half, 100 : ネットワークはリンク状態にあり、オートネゴシエーションにより半二重 100 Mbps 接続になっていることを示します。
- Port 1 Full, 10 : ネットワークはリンク状態にあり、オートネゴシエーションにより全二重 10 Mbps 接続になっていることを示します。
- Port 1 Half, 10 : ネットワークはリンク状態にあり、オートネゴシエーションにより半二重 10 Mbps 接続になっていることを示します。

ステップ 6 Network Statistics パネルを終了するには、**Exit** ソフトキーを押します。



(注) Network Statistics パネルに表示された値をリセットするには、IP フォンの電源をいったんオフにしてから、再度オンにします。

ファームウェアバージョンの表示

ファームウェアバージョンを表示する手順は、次のとおりです。

- ステップ 1 **Settings** キーを押します。Settings メニューが表示されます。
- ステップ 2 **Status** を選択します。
- ステップ 3 **Select** ソフトキーを押します。Setting Status メニューが表示されます。
- ステップ 4 **Firmware Versions** を選択します。
- ステップ 5 **Select** ソフトキーを押します。Firmware Versions パネルが表示されます。

このパネルには、次の情報が表示されます。

- Application Load ID : IP フォン上の現在のソフトウェア イメージ。
- Boot Load ID : 製造時に IP フォンに記録されたブートストラップ ロダー イメージ バージョン。このイメージ名は変更できません。

ステップ 6 Firmware Versions パネルを終了するには、**Exit** ソフト キーを押します。

Cisco SIP IP Phone のファームウェアのアップグレード

Cisco SIP IP phone 上のファームウェアをアップグレードするには、2 通りの方法があります。IP フォン特有のコンフィギュレーション ファイルを使用して、1 台毎に IP フォンのファームウェアをアップグレードする方法と、デフォルトのコンフィギュレーション ファイルを使用して、システム全体の IP フォンのファームウェアをアップグレードする方法です。

1 台毎にファームウェアをアップグレードする場合は、IP フォン特有のコンフィギュレーション ファイルで `image_version` を指定します。システム全体の IP フォンのファームウェアをアップグレードする場合は、デフォルトのコンフィギュレーション ファイルに `image_version` を指定し、IP フォン特有のコンフィギュレーション ファイルには、`image_version` を定義しないでください。

始める前に

- Cisco SIP IP phone のファームウェアの最新バージョンが、Cisco.com から TFTP サーバのルート ディレクトリにコピーされていることを確認します。

アップグレード方法を決定するには、表 3-10 のアップグレード シナリオを参照してください。

表 3-10 アップグレード シナリオ

| イメージ名 | 参照先の項 |
|--|---|
| POS30202、POS30203、および POS3-03-y-xx | リリース 2.2 以降から最新リリースへのアップグレード (P.3-38) |
| POS30100、POS30200、POS30201、および POS3Zxxx | リリース 2.1 以前から最新リリースへのアップグレード (P.3-39) |
| P003xxxx または P003xxxxxxxx (これらのイメージは、出荷時に Cisco SIP IP phone にロードされています) | SCCP または MGCP から SIP リリースへの二重ブート (P.3-40) |
| POS3-xx-y-zz | SCCP または MGCP から SIP リリースへの二重ブート (P.3-40) |

リリース 2.2 以降から最新リリースへのアップグレード

ステップ 1 新しいイメージ POS3-xx-y-zz.bin を、Cisco.com から TFTP サーバのルート ディレクトリにコピーします。ここで、xx はリリース メジャー バージョン、y はリリース マイナー バージョン、zz は、メンテナンス番号です。

ステップ 2 テキスト エディタを使用して、コンフィギュレーション ファイルを開き、`image_version` 変数に指定されているイメージ バージョンを更新します。`image_version` 変数の中のバージョン名が、ダウンロードした最新のファームウェアのバージョン名 (.bin 拡張子が付かない) と一致していることが必要です (たとえば、POS3-xx-y-zz)。

ステップ 3 各 IP フォンをリセットします。

IP フォンは、TFTP サーバと通信して、自身のコンフィギュレーション ファイルを要求します。IP フォンは、ファイルに定義されているイメージと、フラッシュ メモリに保存されているイメージを比較します。ファイルに定義されているイメージが、フラッシュ メモリに保存されているイメージと異なっていると判断した場合、IP フォンは、コンフィギュレーション ファイル (TFTP サーバのルート ディレクトリに保存) に定義されているイメージをダウンロードします。新規イメージがダウンロードされると、IP フォンは、そのイメージをフラッシュ メモリ内にプログラムし、リブートします。



(注) デフォルトのコンフィギュレーション ファイルで `image_version` パラメータを定義しない場合は、IP フォン特有のコンフィギュレーション ファイルで新規イメージバージョンを使用するように更新し、再始動した IP フォンだけが、最新のファームウェア バージョンを使用するようになります。その他の IP フォンはすべて、それぞれのコンフィギュレーション ファイルが、新規イメージバージョンを使用するように更新されるまでは、古いバージョンを使用することになります。

リリース 2.1 以前から最新リリースへのアップグレード

ステップ 1 POS30202.bin バイナリ イメージを Cisco.com から TFTP サーバのルート ディレクトリにコピーします。

ステップ 2 Skinny Client Control Protocol (SCCP)、または MGCP プロトコルを実行する Cisco IP フォンから二重ブートしようとする場合は、テキスト エディタで OS79XX.TXT ファイルを開き、POS30202 を組み込むようにそのファイルを変更します。

ステップ 3 テキスト エディタで IP フォンのコンフィギュレーション ファイルを開き、`image_version` 変数を編集して POS30202 を読み取ります。

ステップ 4 各 IP フォンをリセットします。

IP フォンは、TFTP サーバと通信して、自身のコンフィギュレーション ファイルを要求します。IP フォンは、ファイルに定義されているイメージと、フラッシュ メモリに保存されているイメージを比較します。ファイルに定義されているイメージが、フラッシュ メモリに保存されているイメージと異なっていると判断した場合、IP フォンは、コンフィギュレーション ファイル (TFTP サーバのルート ディレクトリに保存) に定義されているイメージをダウンロードします。新規イメージがダウンロードされると、IP フォンは、そのイメージをフラッシュ メモリ内にプログラムし、リブートします。

ステップ 5 新しいイメージ POS3-xx-y-zz.bin を、Cisco.com から TFTP サーバのルート ディレクトリにコピーします。ここで、xx はリリース メジャー バージョン、y はリリース マイナー バージョン、zz は、メンテナンス番号です。

ステップ 6 テキスト エディタを使用して、コンフィギュレーション ファイルを開き、`image_version` 変数に指定されているイメージ バージョンを更新します。`image_version` 変数の中のバージョン名が、ダウンロードした最新のファームウェアのバージョン名 (.bin 拡張子が付かない) と一致していることが必要です (たとえば、POS3-xx-y-zz)。

ステップ 7 各 IP フォンをリセットします。

SCCP または MGCP から SIP リリースへの二重ブート

- ステップ 1 POS30202.bin バイナリ イメージを Cisco.com から TFTP サーバのルート ディレクトリにコピーします。
- ステップ 2 SCCP または MGCP プロトコルを実行する Cisco IP フォンから二重ブートしようとする場合は、テキスト エディタで OS79XX.TXT ファイルを開き、POS30202 を組み込むようにそのファイルを変更します。
- ステップ 3 新しいイメージ POS3-xx-y-zz.bin を、Cisco.com から TFTP サーバのルート ディレクトリにコピーします。ここで、xx はリリース メジャーバージョン、y はリリース マイナーバージョン、zz は、メンテナンス番号です。
- ステップ 4 テキスト エディタを使用して、コンフィギュレーション ファイルを開き、image_version 変数に指定されているイメージ バージョンを更新します。image_version 変数の中のバージョン名が、ダウンロードした最新のファームウェアのバージョン名 (.bin 拡張子が付かない) と一致していることが必要です (たとえば、POS3-xx-y-zz)。
- ステップ 5 各 IP フォンをリセットします。

IP フォンは、TFTP サーバと通信して、自身のコンフィギュレーション ファイルを要求します。IP フォンは、ファイルに定義されているイメージと、フラッシュ メモリに保存されているイメージを比較します。ファイルに定義されているイメージが、フラッシュ メモリに保存されているイメージと異なっていると判断した場合、IP フォンは、コンフィギュレーション ファイル (TFTP サーバのルート ディレクトリに保存) に定義されているイメージをダウンロードします。新規イメージがダウンロードされると、IP フォンは、そのイメージをフラッシュ メモリ内にプログラムし、リブートします。

イメージのアップグレードとリモート リブートの実行

Cisco SIP IP phone のバージョン 2.0 以降では、NOTIFY メッセージと `syncinfo.xml` ファイルを使用してイメージのアップグレードとリモート リブートを実行できます。また、`check-sync` Event ヘッダーを持つ NOTIFY を使用して、`dialplan.xml` ファイルを IP フォンにプッシュダウンすることもできます。



(注)

イメージのアップグレードとリモート リブートを実行するには、IP フォン ネットワーク内に SIP プロキシ サーバと TFTP サーバが存在している必要があります。

ファームウェア イメージをアップグレードし、リモート リブートを実行する手順は、次のとおりです。

ステップ 1 ASCII エディタを使用して、TFTP サーバのルート ディレクトリにある `SIPDefault.cnf` ファイルを開き、`image_version` パラメータを最新イメージの名前に変更します。

ステップ 2 ASCII エディタを使用して、TFTP サーバのルート ディレクトリにある `syncinfo.xml` ファイルを開き、イメージ バージョンおよび同期のパラメータを次のように指定します。

```
<IMAGE VERSION="image_version" SYNC="sync_number" />
```

ただし、

- `image_version` は IP フォンのイメージ バージョン。アスタリスク (*) をワイルドカード文字として使用できます。
- `sync_number` は IP フォンの同期レベル。IP フォンのデフォルト同期レベルは 1 です。有効な値は、32 文字までの文字ストリングです。

ステップ 3 IP フォンに NOTIFY メッセージを送信します。NOTIFY メッセージの中に、Event ヘッダーとして「`check-sync`」が含まれていることを確認します。NOTIFY メッセージの例は次のとおりです。

```
NOTIFY sip:lineX_name@ipaddress:5060 SIP/2.0
Via:SIP/2.0/UDP ipaddress:5060;branch=1
Via:SIP/2.0/UDP ipaddress
From:<sip:webadim@ipaddress>
To:<sip:lineX_name@ipaddress>
Event:check-sync
Date:Mon, 10 Jul 2000 16:28:53 -0700
Call-ID:1349882@ipaddress
CSeq:1300 NOTIFY
Contact:<sip:webadmin@ipaddress>
Content-Length: 0
```

NOTIFY メッセージによって IP フォン上でリモート リブート プロセスが開始されると、次のアクションが実行されます。

1. IP フォンが現在アイドル状態になっている場合、IP フォンは 20 秒間待機してから、`syncinfo.xml` ファイルを取得するために TFTP サーバと通信します。IP フォンがアイドル状態になっていない場合、IP フォンはアイドル状態になるまで 20 秒間待機してから、`syncinfo.xml` ファイルを取得するために TFTP サーバと通信します。
2. IP フォンは `syncinfo.xml` ファイルを読み取り、必要に応じて次のアクションを実行します。

- a. 最新イメージが指定されているかどうか判別します。指定されている場合、IP フォンはステップ c. に進みます。指定されていない場合、IP フォンはステップ b. に進みます。
- b. `image_version` パラメータにワイルドカード エントリ (*) があるかどうか判別します。ワイルドカード エントリがある場合、IP フォンはステップ c. に進みます。ない場合、IP フォンはステップ d. に進みます。
- c. 同期値が IP フォンに保存されている値と異なるかどうか判別します。異なる場合、IP フォンはステップ e. に進みます。同じ場合、IP フォンはステップ d. に進みます。
- d. IP フォンは何も行いません。
- e. IP フォンはリブートします。

次に IP フォンは、「初期化プロセスの概要」(P. 2-2) に説明されている通常のリブートプロセスを実行し、新規イメージを検出して、`syncinfo.xml` ファイルで指定された値の同期値を使用して新規イメージにアップグレードします。
